



Title	スワヒリ語チャニ変種の接続形と命令形概観
Author(s)	竹村, 景子
Citation	スワヒリ&アフリカ研究. 2014, 25, p. 120-129
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/72984
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

スワヒリ語チャアニ変種の接続形と命令形概観

竹村 景子

0. はじめに

東アフリカ一帯で地域共通語として話され、アフリカの諸言語の中で最も研究されている言語であるスワヒリ語には、多くの変種があるとされている。先行研究（Stigand 1915、Bryan 1959、Mkude 1983、Nurse & Hinnebusch 1993）ではだいたい 20～24 の変種が確認されている。本稿では、ザンジバル島北部県北部 A 郡に位置するチャアニ村で話されているチャアニ変種（Kichaani）を取り上げる。

チャアニ村は、ザンジバル島の中心地であるザンジバルタウンから北北東に約 40 km のところに位置し、ザンジバル島の北西にあるトゥンバトゥ島から移住してきた人々が建設した村だと言われている。村民の多くが、自分たちの話すスワヒリ語とザンジバルタウンで話されるザンジバルタウン変種に違いがあるという認識を持っている。実際、現地調査の結果、文法においても語彙においても差異が確認されている¹⁾。

以下、本稿ではチャアニ変種の接続形と命令形について概観していく²⁾。なお、接続形の例文中にいわゆる直説法の動詞も現われるため、直説法の動詞構造にも若干言及する。また、表記については標準語の正書法に準じることとし、差異を確認するために各例文には標準語の文も併記する³⁾。

1. 直説法の構造

直説法の場合、動詞は以下のように構成される。

主語接辞—時制接辞—目的語接辞—語根—派生接辞—末尾辞

1) 2011 年 8 月、2012 年 8 月および 2013 年 8 月に調査を行なった。これらの調査結果については別稿に改める。

2) 本稿で概観するチャアニ変種の接続形と命令形については、日本アフリカ学会第 50 回学術大会(2013 年 5 月 25 日、東京大学駒場キャンパスにて開催)において、「スワヒリ語諸方言調査報告—接続形と命令形について」と題して宮崎久美子氏(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)との共同発表を行なった。

3) 例文 a はチャアニ変種、b は標準語とし、特に断りがない限りチャアニ変種の構造のみ説明する。

(1)a. ku-na-ni-pik-i-ya 「あなたは私に料理してくれる」

SM2SG-PRS-OM1SG-料理する-APPL-BF

b. u-na-ni-pik-i-a

SM2SG-PRS-OM1SG-料理する-APPL-BF

この中で必須要素は主語接辞、時制接辞、語根、末尾辞である。主語接辞と目的語接辞はそれぞれ文中の主語名詞と目的語名詞が属するクラスに呼応して現われるが、それらの名詞がない場合は代名詞としての機能を果たす。特に人称主語接辞および目的語接辞の場合、独立人称代名詞が文中に現れることはめったになく、現われる時は強調表現である。また、主語名詞と目的語名詞が明らかに「生き物」を意味する語である時、その名詞が属するクラスが生き物を表わすクラスである 1 クラス (SG) もしくは 2 クラス (PL) ではなくても、主語接辞と目的語接辞は 1 クラスもしくは 2 クラスのものとなる。否定形の場合は、否定主語接辞が必ず用いられる。

テンス・アスペクト・ムードについては基本的に時制接辞で決まるが、語根の母音をコピーして末尾辞が音韻変化を起こす場合もある。時制接辞と末尾辞は以下の表 2 の通りである。末尾辞は基本的に母音 1 音で形成されているが、母音連続を避けるために、語根末が母音である場合および派生接辞末が母音である場合には接近音 y が付加される。なお、表中の -V は語根の最終母音と同じであることを示す。

<表 2：チャア二変種の時制接辞と末尾辞>

時制接辞		末尾辞	
-na-	現在	-a	基本形
-ta-	未来	-V	現在否定形, 過去形
-ø-	過去	-e	接続形
-e-	過去否定		
-ma-	完了		
-sha-	完結		
-ja-	未完了		
-ka-	継起, 同時, 条件		
-hu-	習慣		
-nge-	仮想		
-ngali-	継続		

- (2)a. ni-som-o Kiswahili 「私はスワヒリ語を学んだ」
 SM1SG-学ぶ-PstF スワヒリ語 7
- b. ni-li-som-a Kiswahili.
 SM1SG-PST-学ぶ-BF スワヒリ語 7

過去形では語根内最終母音と同じ母音が末尾辞として用いられる⁴⁾が、先述の通り、チャアニ変種では母音連続を避けるために語根末が母音の場合は接近音 y が付加される。

- (3)a. ka-nunu-yu buku 「彼は本を買った」
 SM3SG-買う-PstF 本 5
- b. a-li-nunu-a kitabu
 SM3SG-PST-買う-BF 本 7

ただし、語根末が e と i の場合には流音 l が挿入される。

- (4)a. tu-m-le-le Juma 「私たちはジュマを育てた」
 SM1PL-OM3SG-育てる-PstF ジュマ
- b. tu-li-m-le-a Juma
 SM1PL-PST-OM3SG-育てる-BF ジュマ
- (5)a. mu-li-li 「あなたたちは泣いた」
 SM2PL-泣く-PstF
- b. m-li-li-a.
 SM2PL-PST-泣く-BF

2. 接続形

依頼、提案、勧誘などには接続形が用いられる。接続形の構造は以下の通りである。

肯定文：主語接辞－目的語接辞－語根－接続形末尾辞

否定文：主語接辞－否定辞－目的語接辞－語根－接続形末尾辞

- (6)a. ni-ku-p-e kalamu 「私があなたにペンをあげよう」
 SM1SG-OM2SG-与える-SBJF ペン 9
- b. ni-ku-p-e kalamu
 SM1SG-OM2SG-与える-SBJF ペン 9

4) ムタガタ変種(Kimtang'ata)も過去形で同様の構造を持つことが Whiteley (1959)で記述されている。大陸側でも同じ特徴が見られることから、近隣諸変種に関する詳細な記述調査が必要ではないかと考えられる。

- (7)a. u-nyw-e maji yano 「(あなたは) この水を飲んで」
 SM2SG-飲む-SBJF 水 6 DEMN6
 b. u-nyw-e maji haya
 SM2SG-飲む-SBJF 水 6 DEMN6
- (8)a. tu-rudi nyumbani 「私たちは家に帰ろう」
 SM1PL-戻る/帰る 家に 17
 b. tu-rudi nyumbani
 SM1PL-戻る/帰る 家に 17
- (9)a. tu-si-rudi nyumbani 「私たちは家に帰らないでおこう」
 SM1PL-Neg-戻る/帰る 家に 17
 b. tu-si-rudi nyumbani
 SM1PL-Neg-戻る/帰る 家に 17

上の構造で目的語接辞は必須ではない。(8)および(9)の例からわかるように、他言語からの借用語の動詞には接続形末尾辞が付加されない。

- (10) a. u-ni-tend-e-le mikate 「あなたが私にパンを作って」
 SM2SG-OM1SG-作る-APPL-SBJF パン 4
 b. u-ni-tengenez-e-e mikate
 SM2SG-OM1SG-作る-APPL-SBJF パン 4
- (11) a. ni-si-ku-saidi-le 「私はあなたを手伝わないでおこう」
 SM1SG-Neg-OM2SG-手伝う-SBJF
 b. ni-si-ku-saidi-e
 SM1SG-Neg-OM2SG-手伝う-SBJF
- (12) a. tu-ka-le pano 「私たちはここに座ろう」
 SM1PL-座る-SBJF DEMN16
 a. tu-ka-e hapa.
 SM1PL-座る-SBJF DEMN16

(10)、(11)、(12)の例からわかるように、語根末もしくは派生接辞末が母音である場合、接続語尾には1が付加される。

3. 命令形

命令には命令形が用いられる。命令形は、相手が2SGの場合は語根—基本語尾をそのまま用いるが、相手が2PLの場合は複数を表わす後接辞を伴う。(14)と(16)の例からわかるよ

うに、標準語では後接辞を伴う際に基本語尾-a に音韻変化が生じて-e になるが、チャアニ変種では基本語尾のままである。

- (13) a. tend-a 「やりなさい」
 する-BF
 b. fany-a
 する-BF
- (14) a. tend-a-ni 「あなたたち、やりなさい」
 する-BF-ImpPL
 b. fany-e-ni
 する-BF (音韻変化) -ImpPL
- (15) a. uk-a 「出発しなさい／出ていきなさい」
 出発する/出ていく-BF
 b. ondok-a
 出発する/出ていく-BF
- (16) a. uk-a-ni 「出発しなさい／出ていきなさい」
 出発する/出ていく-BF-ImpPL
 b. ondok-e-ni
 出発する/出ていく-BF (音韻変化) -ImpPL

また、-enda 「行く」、-ja 「来る」、-leta 「持ってくる」のみ(17)～(19)のように不規則変化となる。

- (17) a. -enda : nenda 「行きなさい」 nendani 「あなたたち行きなさい」
 b. -enda : nenda nendeni
- (18) a. -ja : njo 「来なさい」 njoni 「あなたたち来なさい」
 b. -ja : njoo njooni
- (19) a. -leta : lete 「持ってきてなさい」 leteni 「あなたたち持ってきてなさい」
 b. -leta : lete leteni

否定命令／禁止命令の場合は接続形の否定形と同形になる。

- (20) a. u-si-nyw-e maji yano 「この水を飲んではいけない」
 SM2SG-Neg-飲む-SBJF 水 6 DEMN6

- b. u-si-nyw-e maji haya
 SM2SG-Neg-飲む-SBJF 水 6 DEMN6
- (21) a. m-si-m-sikiz-e 「あなたたちは彼の言うことを聴いてはいけない」
 SM2PL-Neg-OM3SG-聴く-SBJF
- b. m-si-m-sikiliz-e
 SM2PL-Neg-OM3SG-聴く-SBJF

4. 接続形と命令形の比較

接続形と命令形では、同じ動作を相手に促す場合に「依頼」するか「命令」するかの違いがある。下記の例で確認してみよう。

- (22) a. u-ni-p-e maji gilasi moja 「私にグラス一杯の水を下さい」
 SM2SG-OM1SG-与える-SBJF 水 6 グラス 9 数形容詞 1 つの
- b. u-ni-p-e maji gilasi moja
 SM2SG-OM1SG-与える-SBJF 水 6 グラス 9 数形容詞 1 つの
- (23) a. ni-p-a maji gilasi moja 「私にグラス一杯の水をくれ」
 OM1SG-与える-BF 水 6 グラス 9 数形容詞 1 つの
- b. ni-p-e maji gilasi moja
 OM1SG-与える-SBJF 水 6 グラス 9 数形容詞 1 つの

(22)は接続形、(23)は命令形であるが、(23)の例から明らかなように、目的語接辞が 1SG である場合、つまり「あなたが私に／私を～しなさい」の場合に、チャアニ変種では基本語尾をとるということが標準語との決定的な違いである。この違いは、(25)の例からわかるように目的語接辞が 1PL の場合には見られない。

- (24) a. u-tu-tend-e-le mikate 「私たちにパンを作って下さい」
 SM2SG-OM1PL-作る-APPL-SBJF パン 4
- b. u-tu-tengenez-e-e mikate
 SM2SG-OM1PL-作る-APPL-SBJF パン 4
- (25) a. tu-tend-e-le mikate 「私たちにパンを作れ」
 OM1PL-作る-APPL-SBJF パン 4
- b. tu-tengenez-e-e mikate
 OM1PL-作る-APPL-SBJF パン 4

また、依頼／命令される者が 2PL である場合には以下のようなになる。

- (26) a. m-ni-p-e kalamu 「あなたたち、私にペンを下さい」
 SM2PL-OM1SG-与える-SBJF ペン 9
 b. m-ni-p-e kalamu
 SM2PL-OM1SG-与える-SBJF ペン 9
- (27) a. ni-p-a-ni kalamu 「あなたたち、私にペンをくれ」
 OM1SG-与える-BF- ImpPL ペン 9
 b. ni-p-e-ni kalamu
 OM1SG-与える-BF (音韻変化) - ImpPL ペン 9

(27)の例から明らかなように、動作主が 2PL になっても目的語接辞が 1SG であれば、チャ
 アニ変種ではやはり複数を表わす後接辞の前に基本語尾をとる。命令形で目的語接辞が
 1SG でない場合には、語尾の形について標準語との違いが現われないことを以下の例で確
 認する。

- (28) a. m-p-e kalamu 「彼／彼女にペンをあげなさい」
 OM3SG-与える-SBJF ペン 9
 b. m-p-e kalamu
 OM3SG-与える-SBJF ペン 9
- (29) a. m-p-e-ni kalamu 「あなたたち、彼／彼女に
 OM3SG-与える-BF (音韻変化) - ImpPL ペン 9 ペンをあげなさい」
 b. m-p-e-ni kalamu
 OM3SG-与える-BF (音韻変化) - ImpPL ペン 9
- (30) a. wa-p-e kalamu 「彼らにペンをあげなさい」
 OM3PL-与える-SBJF ペン 9
 b. wa-p-e kalamu
 OM3PL-与える-SBJF ペン 9
- (31) a. wa-p-e-ni kalamu 「あなたたち、彼らに
 OM3PL-与える-BF (音韻変化) - ImpPL ペン 9 ペンをあげなさい」
 b. wa-p-e-ni kalamu
 OM3PL-与える-BF (音韻変化) - ImpPL ペン 9

では、時制接辞を伴う文と共に接続形および命令形が用いられる場合の例を以下に示す。

- (32) a. u-ka-pat-a habari u-ni-ambi-le 「何かわかったら教えて下さい」
 SM2SG-CONT-得る-BF 情報 9 SM2SG-OM1SG-伝える-SBJF

- b. u-ki-pat-a habari u-ni-ambi-e
SM2SG-CONT-得る-BF 情報9 SM2SG-OM1SG-伝える-SBJF
- (33) a. u-ka-pat-a habari ni-ambi-ya 「何かわかったら教えなさい」
SM2SG-CONT-得る-BF 情報9 OM1SG-伝える-BF
- b. u-ki-pat-a habari ni-ambi-e
SM2SG-CONT-得る-BF 情報9 OM1SG-伝える-SBJF
- (34) a. u-ka-j-a tena u-ni-let-e-le kijiko
SM2SG-CONT-来る-BF 再び SM2SG-OM1SG-持って来る-APPL-SBJF スプーン7
「もう一度来るならスプーンを持って来て下さい」
- b. u-ki-j-a tena u-ni-let-e-e kijiko
SM2SG-CONT-来る-BF 再び SM2SG-OM1SG-持って来る-APPL-SBJF スプーン7
- (35) a. u-ka-j-a tena ni-let-e-ya kijiko
SM2SG-CONT-来る-BF 再び OM1SG-持って来る-APPL-BF スプーン7
「もう一度来るならスプーンを持って来なさい」
- b. u-ki-j-a tena ni-let-e-e kijiko
SM2SG-CONT-来る-BF 再び OM1SG-持って来る-APPL-SBJF スプーン7
- (36) a. ka-tu-ambi-li “tu-pig-e mbiro”
SM3SG-OM1PL-言う-PstF SM1PL-たたく-SBJF 速さ
「彼は私たちに“走ろう”と言った」
- b. a-li-tu-ambi-a “tu-pig-e mbio”
SM3SG-PST-言う-BF SM1PL-たたく-SBJF 速さ
- (37) a. ka-tu-kataz-a “m-si-pig-e mbiro”
SM3SG-OM1PL-禁止する-PstF SM2PL-Neg-たたく-SBJF 速さ
「彼は私たちに“走るな”と禁止した」
- b. a-li-tu-kataz-a “m-si-pig-e mbio”
SM3SG-PST-OM1PL-禁止する-BF SM2PL-Neg-たたく-SBJF 速さ

(33)と(35)から明らかなように、目的語接辞が 1SG の場合の命令形では基本語尾になっている。

5. おわりに

本稿では、チャアニ変種の接続形と命令形について標準語と比較しながら概観してきた。確認されたように、標準語との大きな差異があったのは目的語接辞が 1SG の命令形である。今後は、チャアニ村の近隣諸村で話されている変種と標準語との間にもこの差異が見られるかどうかを検証するために、少なくともザンジバル島北部県において広く同様の調査を行なって、比較分析する必要があると考えている。

* 本稿で用いたチャアニ変種のデータは、2011 年度～2013 年度科学研究費補助金基盤研究（B）「東アフリカにおけるスワヒリ語諸変種の記述研究」（課題番号：23320086，代表者：竹村景子）により、筆者がザンジバル島北部県北部 A 郡のチャアニ村で行なった調査（2011 年 8 月、2012 年 8 月、2013 年 8 月）において収集した。調査協力者はチャアニ村在住の推定年齢 84 歳（2013 年）の M 氏である。本稿の記述における誤りや不備は全て筆者に帰する。

略号一覧

- 形態素境界

1SG, 1PL 1 人称単数・複数

2SG, 2PL 2 人称単数・複数

3SG, 3PL 3 人称単数・複数

APPL 適用形派生接辞 applicative

BF 基本形末尾辞 basic final

CONT 継続 continous

DEMN 指示詞（近称）demonstrative (Near)

ImpPL 対複数命令後接辞 imperative plural

Neg 否定接辞 negative

OM 目的語接辞 object marker

PRS 現在 present

PST 過去 past

PstF 過去形語尾 past final

SBJF 接続形語尾 subjunctive final

SM 主語接辞 subject marker

参考文献

- Bryan, M. A. 1959. “Swahili Group”. *The Bantu Languages of Africa*. pp.126-129. Oxford University Press.
- Mkude, Daniel J. 1983. “Mtawanyiko wa Lahaja za Kiswahili”. *Makala za Semina ya Kimataifa ya Waandishi wa Kiswahili I - Lugha ya Kiswahili*. pp.62-83. Taasisi ya Uchunguzi wa Kiswahili, Chuo Kikuu cha Dar es Salaam.

- Nurse, D. & T. J. Hinnebusch. 1993. *Swahili and Sabaki: A Linguistic History*. University of California Press.
- Stigand, C. H. 1915. *A Grammar of Dialectic Changes in the Swahili Language*. Cambridge University Press.
- Stude, Traute. 1995. “Language Change and Language Maintenance in the Island of Tumbatu” *Lugha, Utamaduni na Fasihi Simulizi ya Kiswahili*. pp.83-117. TUKI, Chuo Kikuu cha Dar es Salaam.
- Whiteley, W. H. 1956. *Ki-mtang’ata: A Dialect of the Mrima Coast - Tanganyika*. East African Swahili Committee, Makerere College, Kampala.
- 竹村景子. 2012. 「スワヒリ語トゥンバトゥ方言 (G43)」『アフリカ諸語文法要覧』(塩田勝彦編) pp.211-226. 溪水社.